

ご挨拶

第 18 回日本 Awake surgery 学会を 2020 年 10 月 3 日国際医療福祉大学赤坂キャンパス（東京）において開催させていただきます。本学会は、覚醒下手術の普及と安全性の向上、言語機能を中心とした脳科学の進歩を目指し、覚醒下手術に関係する携わる、脳神経外科医、麻酔科医、脳神経内科医、リハビリテーション科医、言語聴覚士、言語学者などが中心となり、2003 年に第 1 回研究会が開催されました。その後、回数を重ね、研究会から学会に変更されました。本学会は2012 年、本学会は麻酔・手術・機能評価の方法論を中心に、詳細に纏めたガイドラインを英文と和文で公表しました。この分野において、そエキスペートが技術の均てん化を目指して作成されたしたガイドラインは世界的にも初めてのものであり、高く評価されました。更に本学会が行う研修会受講が保険診療に必須のものとなり、脳神経外科手術においても大変重要な役割を果たすものになってきましたとなりました。

Awake surgery-覚醒下手術は言語機能、運動機能の評価に加え、近年さまざまな皮質下線維、高次機能の評価が行われるようになり、まさに成熟期を迎えようとしております。そこで、本学会のテーマを「夢と希望への挑戦」とさせていただきます。Awake surgery-覚醒下手術では、脳の手術を安全に行うことが第一ですが、それに加え新たなニューロサイエンスへの貢献や、機能回復を目指した、あるいは機能回復を見越した手術戦略、手術麻酔の進歩など新たな切り口での研鑽や目標を各々が持つつことによって、もう一步治療を前進させる必要があると考えます。皆さまの努力によってもたらされた進歩の結果を、最終的には患者さんに還元する日が来ることを願って挑戦していただきたいからですと思います。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が出されている中でのご挨拶・演題募集となりますが、学会開催時には収束し、皆さまが参加できる環境にあることを願ひまして、ご挨拶と致します。皆様のご参会、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

阿部竜也